

令和5年度 東大和市公立小中学校教員公募資料

東大和市の特徴

東大和市は、落ち着いた住環境で都心の発展と多摩の自然をバランス良く感じられるまちで多摩湖、狭山緑地、公園など自然が豊かです。

- ・人口 85,125人 児童・生徒6,351人（令和5年6月1日現在）
- ・学校数 小学校 10校 中学校 5校
- ・交通 西武新宿線・拝島線・西武多摩湖線・多摩モノレール・西武バス・都バス
東大和市コミュニティバス ちょこバス



多様な学校教育実現のための地域社会人材を活用した学びの充実

～「地域とともにある学校」コミュニティ・スクール全校実施を踏まえて～

確かな学力

- 「地域とともにある学校」の推進
 - ➔ コミュニティ・スクールの全校実施
 - ・地域人材を活用した教育活動の充実 ・放課後子ども教室、部活動地域移行
 - ・地域学校協働活動推進事業「地域未来塾」 等
- 研究奨励事業
 - ➔ 東大和市教育課題研究指定校（総合的な学習の時間、校内サポートルーム）各校校内研究
 - ➔ 都の事業研究指定校（安全教育推進校、体育健康教育推進校、教師養成指定校）国の事業指定校
- 東大和市GIGAスクール構想の更なる推進 Step 3
 - ・オンライン英会話授業の実施（全中学校）・AI教材（学力向上重点校）等
- 学力向上に向けた人材配置 ○ 小中一貫教育 ○ 教員研修の充実

豊かな人間性

- 人権教育（ダイバーシティ教育）の推進
 - ➔ 人種、性別、文化、国籍、宗教などの違い（子どもの多様性）を受け入れ、お互いに認め合うための配慮や考え方、行動を促す教育の推進
- 生徒指導提要の理解の推進
 - ➔ いじめ防止等の対策や自殺対策のための取組の推進（学校いじめ対策委員会の機能強化、「いじめ総合対策」の着実な推進 等）
- 教育相談の充実
 - ➔ 教育相談体制の連携の強化（教育委員会、SSW、サポートルーム、さわやか教育相談室、子ども家庭支援センター、児童相談所、地域福祉関係機関 等）
 - ➔ 教育相談内容の充実（SSW：担当校の巡回：週1回、SC：各校2名 等）

健康・体力

- 健康に対する関心を高め、主体的に健康を保持・増進する態度を養う。 ➔ 医師会との連携「がん教育」の実施 等
- 体力の向上を図るとともに、運動が好きな児童・生徒を育成する。 ➔ 体育の授業における専門家による講座の実施 等

令和5年度 東大和市が目指すコミュニティ・スクール「地域とともにある学校」

コミュニティ・スクール「地域とともにある学校」

コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けて共に協働していく仕組みです。

東大和市では、小・中学校全校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして活動しています。学校運営協議会では、「学校・地域・保護者」で共通理解を図っています。

○「この地域をどのような地域にしたいか」

○「この地域で育つ子ども達の姿をどのような姿にしたいか」

- ・「学校で力を入れること（学校経営方針）」・・・教育活動の工夫・充実
- ・「地域で力を入れること」・・・・・・・・・・地域での取組、教育活動への関わり
- ・「家庭で力を入れること」・・・・・・・・・・家庭教育（地域の支援も）等

地域とともにある学校への転換

》コミュニティ・スクールは地域とともにある学校づくりの有効なツール



コミュニティ・スクールは、育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けてともに協働していく仕組み。

独立行政法人教職員支援機構

取組紹介 東大和市立第三小学校「Let's スク3ポ」

令和4年度の取組

(実績) ・学校経営方針にあるビジョンの共有と評価

- ・年10回の開催（オンラインと集合のハイブリット方式）
- ・60周年記念事業を通した様々な活動（運動会、学芸会、60周年記念集会、60周年記念式典など）

(成果) ・地域の力で子供を育てる⇒地域が主体となった体験的な活動

- ・地域の人材や資源等を授業で活用する⇒生活・総合的な学習の時間を要として
- ・地域の団体がつながる⇒学校運営連絡協議会を要として
- ・学校運営連絡協議会の名称決定⇒地域から親しまれる名称（「Let's スク3ポ」）



東大和市の具体的な取組紹介

多摩地域初マンツーマン英会話レッスン

中学校では、海外在住の外国人講師とオンラインで結ぶマンツーマン英会話レッスンを実施しています。英会話量が増え、一人一人の英語力に合わせた授業を行うことができるようになりました。

○実施校 市内の全中学校

- 特徴
- ・外国人講師を相手とするマンツーマンでのレッスン
 - ・1人1台端末を活用したプログラム構成
 - ・生徒のレベル差に対応したアダプティブラーニング
 - ・スピーキングテストによる英語力の定着の把握

○授業数 最大18回

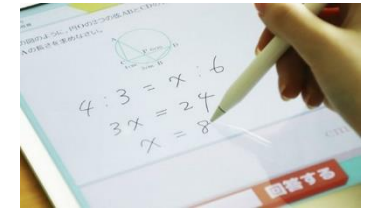
学校時間内レッスン5回、家庭学習（夏季・冬季休業期間等）5回

不定期希望レッスン5回、スピーキングテスト3回



小・中学校（モデル校）にAI型教材を導入

AI（人工知能）が児童・生徒一人一人の学習の過程や回答を分析することで、その児童・生徒が解くべき問題へと自動的に誘導し、効果的で効率的な学習を実現します。各教科の授業や家庭学習等で活用することで、学習習慣の定着や、学力向上を目指します。



総合的な学習の時間（探求的な学習）

東大和市では、令和5年度から「総合的な学習の時間（探求的な学習）」の充実に向けて取組をすすめているところです。児童・生徒が、主体的に学びをすすめられるように地域の学習材「ひと・もの・こと」から、単元づくりを行っています。

○第九小学校では、「東大和市自然保護プロジェクト」として、絶滅危惧種に指定されているトウキョウサンショウウオを飼育し、自然に還す活動を行っています。児童は、身近な地域の自然や生物の保全を通して、生命のつながりについて学んでいます。単元を通して、市役所環境対策課や市民の方と連携して学習を進めています。

大切に飼育してきたトウキョウサンショウウオへ愛着を持ち、自らの手で自然に還す子供達



東大和市の具体的な取組紹介

部活動地域移行

部活動の地域移行に伴い、アルティメットとバドミントンの活動が始まりました。教員の働き方改革の一環として、学校から地域での活動に移行していくことにより、将来にわたって、中学生がスポーツや文化芸術活動に親しむことができる機会を提供していきます。

○アルティメット

顧問 本田雅一氏（日本フライングディスク協会指導普及委員）

活動 毎週火曜日、木曜日、土曜日 （一日約2時間）



○バドミントン

運営 はびねすまいる東大和（地域スポーツクラブ）

活動 毎週土曜日・日曜日のどちらか（一日約3時間）



月あたり時間外勤務45時間未満 小学校80% 中学校70%の達成を目指す

目的

教員一人一人の心身の健康保持の実現及び「働きやすさ」と「働きがい」が統合される環境づくりに向けた働き方の改善を通して、東大和市の学校教育の質の維持向上を図る。

目標

○平日の1日当たりの在校時間を11時間以内とすること。

○週休日である土曜日、日曜日については、連続して業務に従事することがないように、どちらか一方は必ず休養できるようにすること。

取組の方向性

- 1 在校時間の把握と意識改革の推進
- 2 学校を支える人員体制等の整備
- 3 教員業務の見直しと業務改善の推進
- 4 部活動運営の改善
- 5 ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた環境整備

具体的な各学校の取組

- ・タイムカード（勤務時間）の定期的な確認
- ・生活時程の見直し 適正な授業時数の設定
- ・会議の精選・分散 ・あゆみの簡素化 ・卒業文集の廃止
- ・授業時間の精査 ・移動教室のマニュアル化
- ・退勤時刻の徹底 ・定時退勤日の設定

子供達を取り巻く社会（未来）は、少子高齢化（人口減少）・グローバル化・情報化等により、変化が激しく予測困難なものになると予想されます。そのような中でも、教師一人一人が地域とともに、

子供たちが幸せに 安心して暮らせるまち
子供たちが「志」を果たしていける未来を
創り上げていくために

東大和市は、以下の四つの教師像を求めています。

①熱意と愛情をもって子供や保護者に真剣に向き合う教師

②自ら進んで改革（学校・授業・その他教育活動）・実践する教師

③積極的にコミュニケーションを図り、同僚や関係機関と協働できる教師

④自分自身や家族を大切にできる教師

東大和市の学校へのアクセス



©Kotonohasha Co.,Ltd.